

令和2年 1月24日14:00

資料配布 近畿地方整備局

令和元年度 重点「道の駅」・重点「道の駅」候補の選定について

～ 地方創生の核となる「道の駅」の優れた取組を応援します ～

「道の駅」は、地方創生を具体的に実現していくための極めて有力な手段であり、国土交通省では、関係機関と連携して、地方創生の核となる特に優れた企画を選定し、重点的に応援する重点「道の駅」の取組を平成26年度から実施しています。

令和元年度は、地方創生や地域活性化の拠点の形成等を目指した「道の駅」の新たな設置、又はリニューアル等の企画提案を募集し、近畿地方整備局管内で7件の応募がありました。

この度、企画提案内容を確認し、有識者等のご意見を踏まえ、重点「道の駅」及び重点「道の駅」候補を選定しましたのでお知らせします。

○ 重点「道の駅」(国土交通大臣選定)

近畿地方整備局管内 4箇所(全国15箇所)

今後の施設整備に向け、駐車場や休憩施設等は社会資本整備総合交付金等で重点支援するとともに、自治体・関係機関による協議会を設け、複数の関係機関の制度の活用等についてワンストップで相談できる体制を構築するなど、ハード・ソフト両面から支援

【重点道の駅(4箇所)】

美浜(仮称)【美浜町】、あいとうマーガレットステーション【東近江市】、
丹波おばあちゃんの里【丹波市】、高田屋嘉兵衛公園(仮称)【洲本市】

○ 重点「道の駅」候補(近畿地方整備局長選定)

近畿地方整備局管内 3箇所(全国15箇所)

自治体・関係機関による協議会を設け、複数の関係機関の制度の活用等についてワンストップで相談できる体制を構築するなど、主にソフト面から支援

<取扱い>

<配布場所> 近畿建設記者クラブ、大手前記者クラブ
福井県政記者クラブ、滋賀県政記者クラブ、大阪府政記者会、
兵庫県政記者クラブ

<問合せ先> 国土交通省 近畿地方整備局 道路部 交通対策課

交通対策課長 こばやし まさはる 小林 正治 (内線4511)

道路構造保全官 よこやま たけし 横山 健司 (内線4613)

TEL : 06-6945-9107 FAX : 06-6942-3911

令和元年度 近畿地方整備局管内 重点「道の駅」選定箇所一覧

○重点「道の駅」選定駅（4箇所）

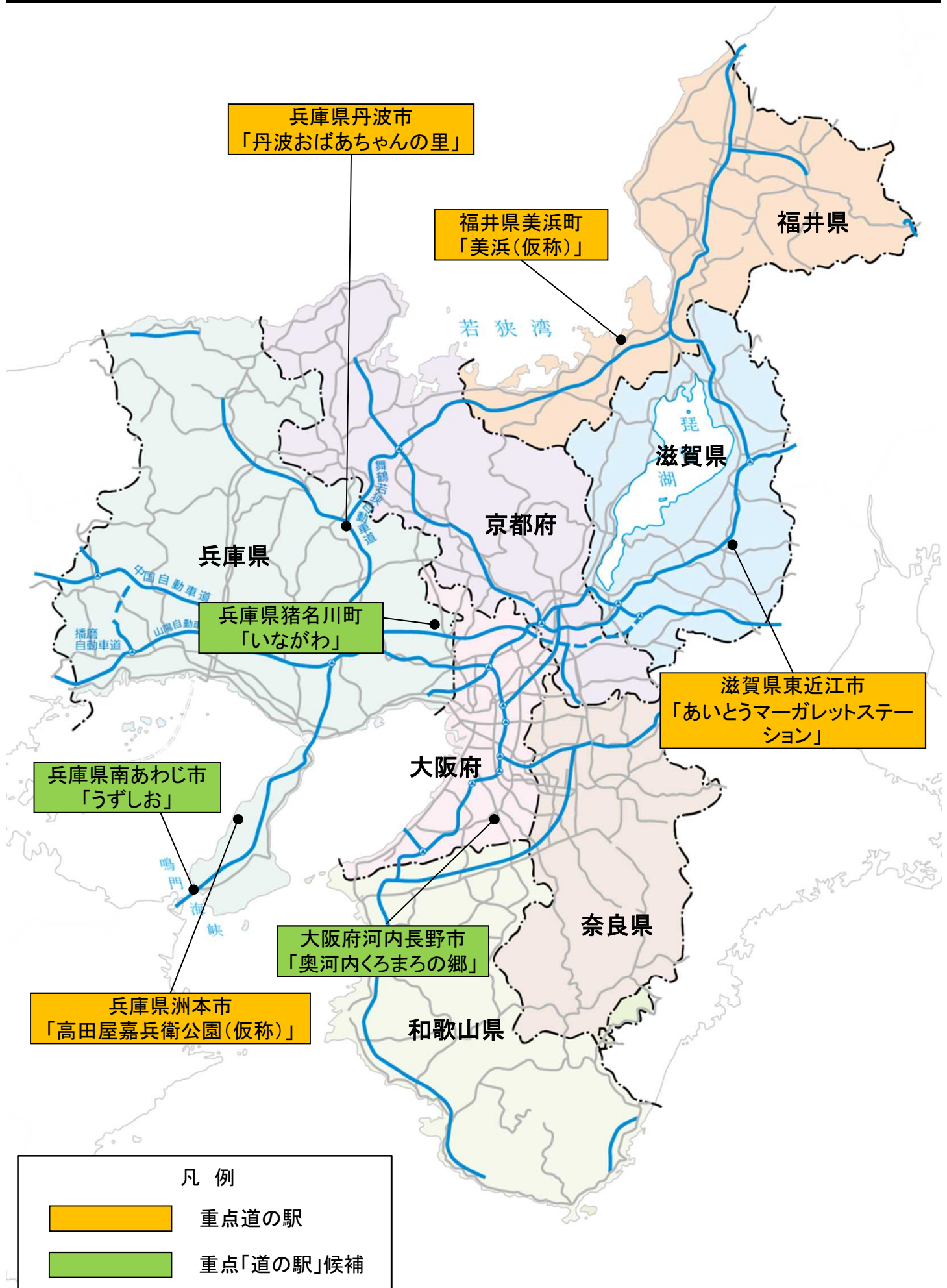
番号	都道府県	市町村	道の駅名	企画の概要
1	福井県	美浜町	美浜(仮称)	○2023年春の北陸新幹線敦賀開業を見据え、JR美浜駅前という立地を活かし、道の駅を拠点として美浜町の様々な情報を発信する。さらに、道の駅のみならず、JR美浜駅前を含む周辺開発も進め、一体的に地域活性化の拠点整備を図っていく ○一時預かり機能を有する子育て交流施設を整備することで、子育て世代の育児環境を整え、人口減少に歯止めをかける ○美浜町が誇るブランド「美浜熟成魚」や地元農産物等を活用した商品開発等に取り組み、第一次産業の推進を図る
2	滋賀県	東近江市	あいとう マーガレット ステーション	○道の駅を核にした農業体験型「ガーデンビレッジ」によって、特色・魅力ある地域の拠点づくりを目指す ○農業のレジャー化やイメージチェンジによって、新たな就農者（農業女子）の確保と交流人口を増大させ、農業・農村を活性化させる ○道の駅を広域観光の拠点とし、農業・歴史・文化を体感できる観光のルート化によってインバウンド等の観光客を増大させる ○農業体験メニューの充実により、親子がふれあい、土に親しみ、収穫の喜びや楽しさを感じることで子どもたちの感性や情操を育む ○子育て支援機能を充実し、子育て親子の交流の場の提供と交流の促進を図る
3	兵庫県	丹波市	丹波おばあ ちゃんの里	○基礎機能の向上を図り、ゲートウェイ機能を強化する ○ロードサイドホテルの誘致により、新たな来訪者（訪日外国人を含む）の受入を推進する ○観光情報センターを整備し、北近畿・丹波市内の周遊観光を推進する。 ○恐竜遊具など「恐竜ちーたん公園」を整備し、親も子も楽しめる道の駅をめざす
4	兵庫県	洲本市	高田屋嘉兵衛公園(仮称)	○地域連携DMOとの連携により、日本遺産「北前船寄港地・船主集落」や御食国(みけつくに)淡路島の豊かな農水産物などの地域資源を活かした、周遊・滞在型観光、インバウンド観光を推進し、次世代観光拠点の形成を目指す ○淡路島中央スマートICを活用した高速道路との連携により、淡路島西海岸観光のゲートウェイ機能を強化 ○「アワイチ(淡路島一周サイクリングルート)」のゲートウェイ施設として、サイクリストの快適で安心な利用をサポートする機能を集約 ○ベビーコーナーや移住相談窓口の設置等により、子育て世代や移住希望者を応援

令和元年度 近畿地方整備局管内 重点「道の駅」候補 選定箇所一覧

○重点「道の駅」候補選定駅（3箇所）

番号	都道府県	市町村	道の駅名	企画の概要
1	大阪府	河内長野市	奥河内 くろまろの郷	○AIコンシェルジュ配置や観光ハブ化、広域観光情報の発信により、ゲートウェイ型ハブ拠点の整備 ○ウェルネス、生活スタイルに沿った施設機能を強化するとともに、デジタルサイネージの活用や電動自転車充電ネットワーク構築による次世代観光拠点の整備
2	兵庫県	猪名川町	いながわ	○PFIIにより移転・リニューアルし、子育て支援や温浴施設の整備など、施設機能を充実 ○高速道路とのアクセス性を生かし、町内外の利用を促進 ○サイクルステーション等の整備、観光情報発信の強化により、風景街道・道守との連携を強化 ○観光ツアーの起点として、インバウンド・次世代観光拠点を形成
3	兵庫県	南あわじ市	うずしお	○サイクルステーション、大鳴門橋自転車道との一体的整備より、四国サイクリングルートとの広域連携を図りサイクルツーリズムを推進 ○施設リニューアルや地域連携DMOと連携した観光情報の発信、インバウンド受入体制・情報発信の強化により次世代観光拠点を形成 ○駐車場不足に対応し、離れた駐車場との移動手段としてグリーンスローモビリティを導入

令和元年度 重点「道の駅」・重点「道の駅」候補 選定箇所位置図



道の駅「美浜(仮称)」(福井県美浜町) 企画概要

<新設>

R1重点

- 2023年春の北陸新幹線敦賀開業を見据え、JR美浜駅前という立地を活かし、道の駅を拠点として美浜町の様々な情報を発信する。さらに、道の駅のみならず、JR美浜駅前を含む周辺開発も進め、一体的に地域活性化の拠点整備を図っていく
- 一時預かり機能を有する子育て交流施設を整備することで、子育て世代の育児環境を整え、人口減少に歯止めをかける
- 美浜町が誇るブランド「美浜熟成魚」や地元農産物等を活用した商品開発等に取り組み、第一次産業の推進を図る

産業振興に資する「道の駅」



- ・地場産品を活用した新商品の開発
- ・生の顧客ニーズを反映させた商品展開
- ・定住移住相談窓口の設置による担い手の確保



次世代の担い手づくり

産業振興

地場産品を活用した
新商品の開発

交流

公共交通の中心部
二次交通の拠点整備

子育て支援

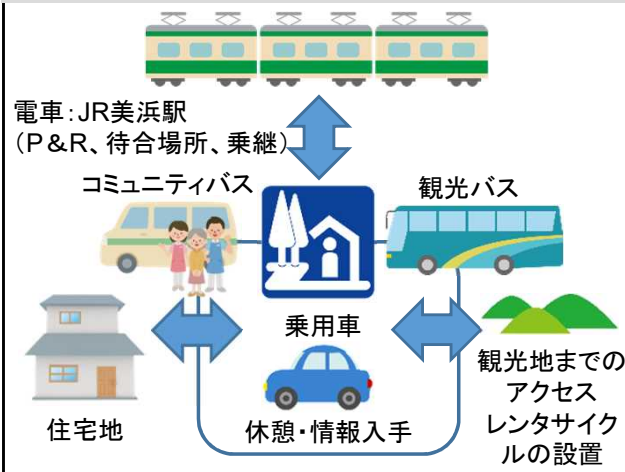
子育て支援環境の充実
婚活支援

地域づくり

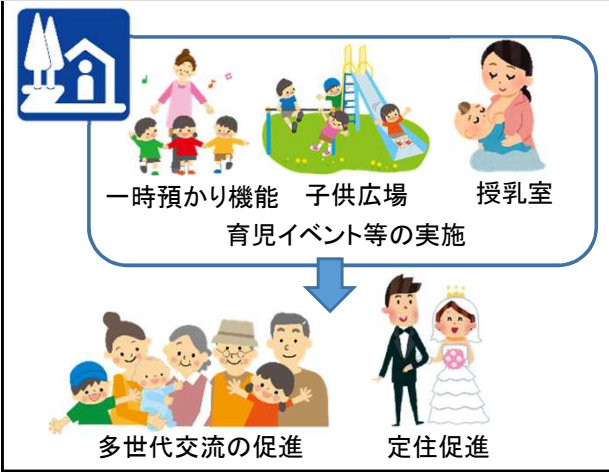
民民の連携
地域防災の強化

駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
美浜(仮称)	福井県	美浜町	国道27号	新設	令和4年度	一体型

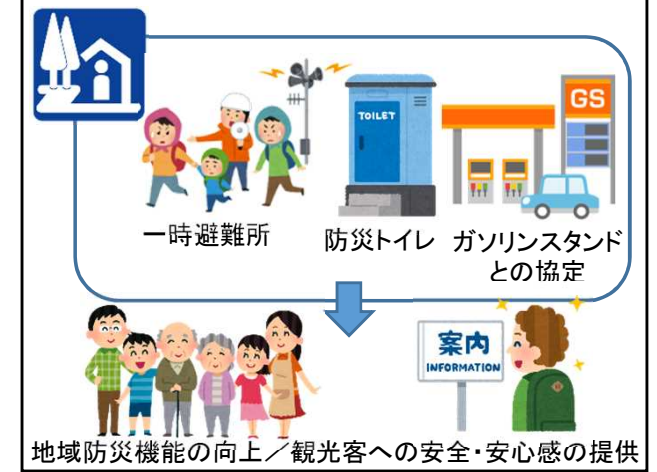
多様な交通機関が集う「道の駅」



子育て支援に資する「道の駅」



地域防災に資する「道の駅」



<提案の先駆性・ポイント>

- 「ブランド」を活用した「シーセールス」の実施
- 産業振興のための次世代の担い手づくりの推進
- 「ゲートウェイ」としての役割
- 子育て支援環境充実のための施設整備の推進
- UIターン型の起業を促すことによる定住移住の促進
- PFI事業により民間の経営能力や技術力(ノウハウ)を活用

<実施内容>

- 地場産品を活用した新商品の開発・ブランド化を図り道の駅で販売、ふるさと納税返礼品として活用
- 人材育成型観光農園(道の駅周辺農地を活用)と連携した人材育成や特産品づくり及びDMOと連携した観光地づくり
- コミュニティバス運行ルートへ編入し、二次交通拠点整備
- 子育て交流施設、一時預かり機能、授乳室の整備、育児講習会等の実施
- 町内外から起業者を募り、町民にとって不可欠な生活利便サービスを提供

道の駅「あいとうマーガレットステーション」(滋賀県東近江市) 企画概要<既設>

R1重点

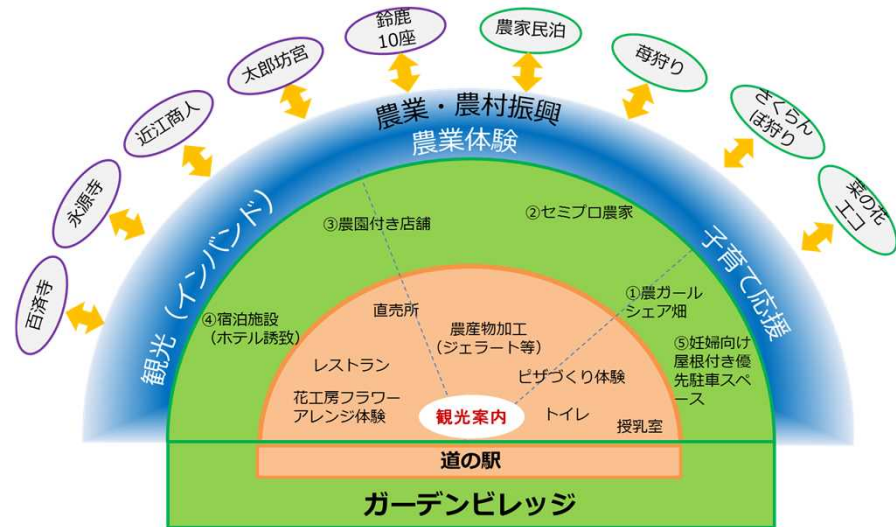
- 道の駅を核にした農業体験型「ガーデンビレッジ」によって、特色・魅力ある地域の拠点づくりを目指す
- 農業のレジャー化やイメージチェンジによって、新たな就農者(農業女子)の確保と交流人口を増大させ、農業・農村を活性化させる
- 道の駅を広域観光の拠点とし、農業・歴史・文化を体感できる観光のルート化によってインバウンド等の観光客を増大させる
- 農業体験メニューの充実により、親子がふれあい、土に親しみ、収穫の喜びや楽しさを感じることで子どもたちの感性や情操を育む
- 子育て支援機能を充実し、子育て親子の交流の場の提供と交流の促進を図る



<提案の先駆性・ポイント>

- 農業女子を増やすことで、農業に対するイメージを変え、子どもやファミリーが楽しめる農園の創出によって、地域農業の活性化や担い手確保が期待できる。また農業体験によって、子どもの感性や情操が育まれる。
- セミプロ農園によって直売所の活性化が図れ、新たな担い手の誕生が期待できる。
- 農業体験メニューの拡大によって、インバウンド等の観光客を増大させる。
- 通過型観光から道の駅の宿泊施設を拠点とした地域滞在型観光への移行が期待できる。
- 子育て世代を応援するため、安心・安全な環境づくり(専用駐車場整備)を行う。

駅名	都道府県名	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
あいとうマーガレットステーション	滋賀県	東近江市	国道307号	既設	平成7年度	一体



<実施内容>

- 農業女子をターゲットとしたシェア畑の整備によって、農業女子の就業や子どもやファミリーの農業体験を促進する。
- 直売所の生産者拡大に向け、セミプロ型の市民農園を開設する。
- 周辺農地において農業者による農業体験メニューを拡大させる。
- 宿泊施設を誘致し、農業体験や市内観光施設との連携により、インバウンド等の観光客を増大させる。
- 子育て世代を応援するため、妊婦向け屋根付き優先駐車スペースを確保する。

道の駅「丹波おばあちゃんの里」(兵庫県丹波市) 企画概要

<既設>

R1重点

次世代につなぐ拠点へ再整備 ～多機能型拠点を形成し、地方創生を実現～

- 基礎機能の向上を図り、ゲートウェイ機能を強化する
- ロードサイドホテルの誘致により、新たな来訪者(訪日外国人を含む)の受入を推進する
- 観光情報センターを整備し、北近畿・丹波市内の周遊観光を推進する。
- 恐竜遊具など「恐竜ちーたん公園」を整備し、親も子も楽しめる道の駅をめざす

駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
丹波おばあちゃんの里	兵庫県	丹波市	国道175号	既設	平成18年	一体型



<実施内容>

- ロードサイドホテルの誘致、ドライバーをサポートするセルフチェック機器を備えたリフレッシュルームの設置、ETC2.0「賢い料金」の推進、EV急速充電設備の設置
⇒【高速道路との連携】
- 丹波市を含む北近畿の地域・観光情報の発信、JNTOカテゴリーⅡ認定の観光情報センターを新設 ⇒【次世代観光拠点の形成】
- 施設の充実(恐竜ちーたん公園)、キッズルームの設置、コンシェルジュによる子供向け周遊観光プランの提供 ⇒【子育て応援】
- サイクルラックの整備。サイクリング愛好団体と連携し、高低差の少ない水分れ街道(シーニックバイウェイジャパン→氷上回廊[日本海と瀬戸内海をつなぐ帯状の低地帯])を通行するサイクリストのためのエイドステーション化 ⇒【風景街道・道守との連携】

<提案の先駆性・ポイント>

- 道の駅の近接に民間のロードサイドホテルを誘致し、24時間の観光情報発信を行い、広いエリアからのランドマーク的「道の駅」となる。
- 観光情報センターを新設し、広域の地域・観光情報の発信及び訪日外国人の受入体制を整備する。
- 丹波竜をモチーフにした遊具などを設置し、丹波竜化石工房など子供向け施設への周遊観光促進による子育て応援を強化する。

道の駅「高田屋嘉兵衛公園(仮称)」(兵庫県洲本市) 企画概要 <新設>

R1重点

- 地域連携DMOとの連携により、日本遺産「北前船寄港地・船主集落」や御食国(みけつくに)淡路島の豊かな農水産物などの地域資源を活かした、周遊・滞在型観光、インバウンド観光を推進し、次世代観光拠点の形成を目指す
- 淡路島中央スマートICを活用した高速道路との連携により、淡路島西海岸観光のゲートウェイ機能を強化
- 「アワイチ(淡路島一周サイクリングルート)」のゲートウェイ施設として、サイクリストの快適で安心な利用をサポートする機能を集約
- ベビーコーナーや移住相談窓口の設置等により、子育て世代や移住希望者を応援

【地域の課題】

淡路島内の行政機関や道の駅は、概ね島の東海岸側に位置。西海岸の少子高齢化・人口減少は著しく、いち早く地域の活性化に向けた拠点形成が必要。



【対応案】

都市農村交流や高田屋嘉兵衛翁の顕彰を目的として設置された本公園を、地域活性化の拠点として再整備。



約10haの広い敷地に、江戸時代後期に活躍した廻船問屋「高田屋嘉兵衛」ゆかりの資料(日本遺産「北前船寄港地・船主集落」構成文化財)を所蔵する資料館をはじめ、公共の宿、温浴施設(天然温泉)、ログハウスやオートキャンプ場、芝生広場、遊具等の様々な施設が配置。

駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
高田屋嘉兵衛公園(仮称)	兵庫県	洲本市	県道31号	新設	令和3年度	単独型

ー西海岸の地域振興と淡路島中央SICの活用ー

西海岸には、播磨灘に沈む夕日や、サワラや淡路ビーフ、たまねぎ等の食材、海水浴場や観光農園、カフェ等の観光資源が豊富。

本施設が拠点となり、淡路島中央SICも活用しながら、情報発信や特産品の販売等を実施。



ー子育て・田舎暮らし応援ー

ベビーコーナーの整備や遊具の設置・改修等により、子育て家庭にとってさらに居心地の良い公園に。

本市は民間の「子育て世代にぴったりの田舎」ランキング等で全国1位の実績有(※)。新たに園内に移住相談窓口を設置。



ーサイクルツーリズムの振興ー

淡路島ロングライド150の開催など、サイクリストの人気の高まる淡路島において、宿泊施設等と連携して、滞在型で観光を楽しむサイクルツーリズムを推進。



ー環境学習の推進による地域活性化ー

園内で、嘉兵衛翁の愛した菜の花の搾油や、廃食用油から軽油代替燃料を製造するプロジェクトを実施。また、竹チップを燃料とするボイラーを温浴施設に設置している。



<提案の先駆性・ポイント>

- (一社)淡路島観光協会(地域連携DMO)と連携した情報発信、外国人観光案内所に関するJNTO認定(カテゴリー1)を目指す
- 淡路島中央SICを活用したモデル観光ルートの発信
- 高速バス停、宿泊施設、サイクルステーション、レンタサイクル等の各種施設・設備を組み合わせたサイクリスト受入
- 広い敷地と多様な施設を活かした子育て応援
- 国のバイオマス産業都市や次世代エネルギーパークにも認定されている洲本市の先進的な施設を活用した環境学習

<実施内容>

※ 株式会社三島島社発行の「田舎暮らしの本」における「第4回日本「住みたい田舎」ベストランキング」

- 日本遺産「北前船寄港地・船主集落」や淡路島西海岸の魅力を集約した情報発信、特産品販売施設の整備
- サイクルステーションの整備とサイクリスト向け情報発信・宿泊受入等の推進によるサイクルツーリズムの振興
- 移住相談窓口の設置及びベビーコーナー、芝生広場や遊具等を活かした子育て世代への憩いの場の提供
- 竹チップ炊きバイオマスボイラーや廃食用油から軽油代替燃料を製造する装置等を活用した環境学習の推進による地域活性化

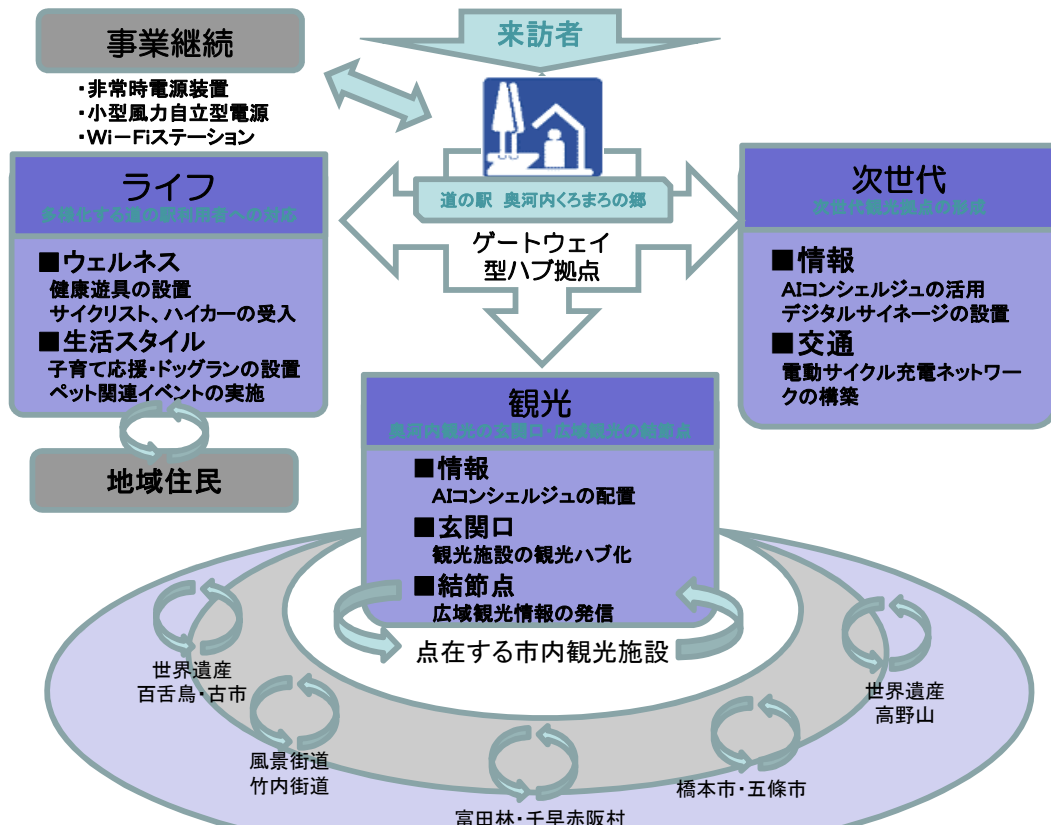
おく かわち さと かわち ながの

道の駅「奥河内くろまろの郷」(大阪府河内長野市) 企画概要<既設>

R1重点候補



- 「観光」、「ライフ」、「次世代」分野での、又、観光客、地域住民など、様々な来訪者におけるゲートウェイとなる道の駅を目指す。
- 「観光」では、市内観光、広域観光ハブの構築と、ゲートウェイ型のハブ拠点化を推進する。
- 「ライフ」「次世代」では、「Society 5.0で実現する社会」「2025大阪・関西万博」を見据え環境整備を行う。



駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
奥河内くろまろの郷	大阪府	河内長野市	市道宮の下線	既設	平成29年	単独型

①観光振興の拠点としての機能強化(「観光」)

- ・「河内長野市第5次総合計画」⇒地域活性・交流拠点
- ・「河内長野市観光振興計画」⇒観光のハブ拠点
- ・外国人観光客も含めた観光集客の強化⇒観光案内、観光情報の発信⇒観光拠点としての機能強化。

⇒外国人観光客の来訪が少ないため、機能強化により増加を目指す。

AIコンシェルジュの配置、市内観光・広域観光情報の発信

②集客施設としての機能強化(「ライフ」・「次世代」・「事業継続」)

- ・多様化する道の駅利用者への対応
- ・次世代観光拠点の形成
- ⇒「Society 5.0で実現する社会」「2025大阪・関西万博」を見据えた機能強化により、多様化する道の駅利用者に対応した施設整備を図る。

ウェルネス、生活スタイルに沿った施設機能強化

次世代観光拠点としての施設機能強化

<提案の先駆性・ポイント>

- 周辺エリアを含む観光ハブ拠点の形成(観光の玄関口、広域観光の結節点、風景街道との連携)
- 「Society 5.0で実現する社会」の進展に対応した、次世代観光拠点の形成
- 多様化する道の駅利用者への対応(子育て応援含む)
- 災害等の非常時においても事業継続が出来る環境整備の推進

<実施内容>

①観光振興の拠点としての機能強化

AIコンシェルジュの配置、観光ハブ化、広域観光情報の発信

②集客施設としての機能強化

健康遊具・ドッグランの設置、デジタルサイネージの設置

電動サイクル充電ネットワークの構築

小型風力自立型電源・Wi-Fiステーション設置による非常時対応

道の駅「いながわ」(兵庫県猪名川町) 企画概要

<既設>

R1重点候補

- 官民連携手法(PFI手法)により、リニューアル(移転拡大)し、さらなる機能充実
- 子育て支援センター(町既存公共施設)を道の駅へ移設し、一時預かり等、新たなサービスを提供
- 温浴施設等、新たな機能を追加し、町民、町外来場者(新名神高速道路利用者)等の利用促進

【現道の駅での主な課題】

- 施設の老朽化、駐車場不足
- 機能拡充のニーズ(魅力(収益)の向上)
- 町民、町外来訪者(高速道路利用者)の利用促進
- イベントの開催、周知の自粛(交通渋滞誘発抑制)



移転(規模・機能拡充)
【0.7ha⇒約3.6ha】

【新たな道の駅での主な課題解決】

- 機能拡充(温浴施設、物販サービス施設等)
- 町市街地、新名神高速道路ICへ近接
- 駐車台数の確保、イベント交流広場の設置
- 積極的なイベントの開催、周知広報
- 民間事業者の運営による集客、収益の向上

計画イメージ【約3.6ha】



【子育て支援センターの課題】

- アクセスが不便
- 駐車場、敷地不足



道の駅へ
移転・併設

子育て応援



子育て支援センター

【子育て支援センターの移設による充実】

- 子育て世代包括支援センターの機能設置
- 施設を拡大し、一時預かり、子育て相談窓口、親子の遊び場、親子教室・講習等新たなサービスの提供
- 日曜・祝日の開所(受入れ拡充)
- 駐車台数の確保
- 路線バス等の充実によるアクセス向上(公共交通の結節点)
- 道の駅の平日集客への寄与(相乗効果)



一時預かり

親子の遊び場



温浴施設



サイクリング

町民、町外来場者(高速道路利用者)、サイクリスト等の休憩機能の充実。

駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
いながわ	兵庫県	猪名川町	県道12号 川西篠山線	新設 【移転】	令和5年度	単独型

<提案の先駆性・ポイント>

- 子育て支援として、**子育て支援センターを移設し、一時預かり等**、新たなサービスを提供。
- 町民、町外来場者、高速道路利用者、サイクリスト等の休憩機能の充実(**温浴施設**)
- 官民連携手法(**PFI手法**)を導入し、施設整備・運営を民間事業者により実施。機能拡大のため**移転リニューアル**を行う。
- 町南北を結ぶ**公共交通の結節点**(路線バス・コミュニティバスの乗り入れ)
- 新たに特産品の開発加工施設を設置。町内産のそば、椎茸、イチゴ、餅等の**特産品のブランド強化**。

<実施内容>

- 子育て支援センターを移設し、一時預かり、子育て相談窓口、親子の遊び場等、新たなサービスを提供【**子育て応援**】
- 新名神高速道路川西ICから約3kmの位置へ移設。高速道路利用者の休憩機能(温浴施設)、地域産品等の販売消費による地域振興(町内産野菜、十割そば)【**高速道路との連携**】
- 近畿自然歩道・歴史街道の休憩地点(サイクルステーション・温浴施設)の充実と観光情報発信【**風景街道・道守との連携**】
- そば打ち体験、町内味覚狩りを紹介(体験型観光)。観光ボランティアガイドとの連携による観光ツアーの起点【**インパウンド・次世代観光拠点の形成**】

道の駅「うずしお」（兵庫県南あわじ市）企画概要 <既設>

R1重点候補

- 「アワイチ」の拠点施設としてサイクルステーションを整備するとともに、検討中の大鳴門橋自転車道と一体的に整備することにより、四国のサイクリングルートとの広域連携を図り、サイクルツーリズムを推進。
- 老朽化した施設の建替えにより、安全性・快適性を向上させるとともに、地域連携DMOと連携し、観光情報の一体的発信やインバウンド受入体制・情報発信の強化を図り、次世代観光拠点の形成を目指す。
- 駐車場不足に対応するため、施設から離れた駐車場との移動手段として、環境に優しく移動を楽しむことができるグリーンスローモビリティを導入。

1. サイクルツーリズム推進拠点の整備

兵庫県・徳島県が共同で実現を目指している大鳴門橋自転車道と直結したサイクリングロードやアワイチの拠点施設の整備により、サイクルツーリズムを推進する拠点施設を目指す。



自転車道イメージ(因島大橋)



大鳴門橋/うずしお



2. 老朽化した施設の建替えと次世代観光拠点の形成

老朽化が進み、安全性・快適性に課題が生じていることから、バリアフリー対応等を含めた建替えを実施。
さらに地域連携DMOと連携し、観光情報の一体的発信やインバウンド受入体制・情報発信強化により、次世代観光拠点を目指す。



道の駅うずしおレストラン

3. グリーンスローモビリティの導入

近年の利用者増による駐車場不足が課題となっているが、国立公園特別地域に立地し、駐車場拡張が困難なため、施設から離れた駐車場との移動手段としてグリーンスローモビリティを導入。将来的には周辺の観光地などを自動運転により周遊する仕組みを検討。

道の駅うずしお
大鳴門橋自転車道
笹山駐車場
グリーンスローモビリティ
実証実験区間(約1.3km)道の駅うずしお
大鳴門橋自転車道
笹山駐車場
グリーンスローモビリティ
実証実験区間(約1.3km)

1. 大鳴門橋自転車道と一体となった施設整備
2. 老朽化した施設の建替えによる次世代観光拠点の形成
3. グリーンスローモビリティの導入

アワイチ
高速道路

<提案の先駆性・ポイント>

- サイクルステーション整備と大鳴門橋自転車道と一体となった施設により、鳴門海峡を跨ぐ交流を促進し、四国のサイクルルートとの広域連携を図る。
- 老朽化した施設（昭和45年建築）の建替えにより、バリアフリー対応等を実施し、子供や高齢者も使いやすくなるよう安全性・快適性を向上させる。
- 地域連携DMO「（一財）淡路島観光協会」と連携し、観光情報を一体的に発信することにより、周遊・滞在型観光を推進。
- 外国人観光案内所（JNTO認定カテゴリー1）の設置によりインバウンド受入体制・情報発信の強化を図る。
- 施設から離れた駐車場との移動手段としてグリーンスローモビリティを導入。
- ベビーコーナーの設置等、子育て世代が利用しやすい道の駅を整備。
- 防災機能を強化し、観光客の一時避難所や災害復旧対応の拠点とする。

<実施内容>

- 大鳴門橋と直結したサイクリングロードの整備
- 「アワイチ」の拠点施設としてレンタサイクル、コインロッカー、休憩所、空気入れや工具の貸出等を備えたサイクルステーションの整備
- 老朽化した「道の駅うずしお」の建替え
(バリアフリー対応、地域・観光情報の発信拠点・災害時における防災拠点等の整備、利用者増に対応したトイレ等機能の拡大、ベビーコーナーの設置等)
- グリーンスローモビリティによる駐車場からの送迎を実施、新たな観光資源化
- 神戸淡路鳴門自動車道淡路島南ICに近接する立地環境を活かし、高速バス停や周辺観光スポットに連絡するバスの交通拠点を整備

<参考>令和元年度重点「道の駅」公募概要

公募概要

- 地方創生や地域活性化の拠点の形成等を目指した「道の駅」の新たな設置、又はリニューアル等の企画提案を公募
- 優れた企画があり、今後の重点支援で効果的な取組が期待できるものを選定

公募期間と選定の流れ

○令和元年8月8日(木)～11月8日(金)

企画提案書の提出

各地方整備局等から推薦

企画提案の評価・選定
(有識者意見を踏まえ実施)

重点「道の駅」の選定

- 重点「道の駅」は全国で15箇所、
重点「道の駅」候補は全国で15箇所を選定

支援内容

<ハード的な支援>

- 道路区域内の駐車場、休憩施設、トイレ、道路情報提供施設等は、社会資本整備総合交付金(直轄国道以外)及び交通安全施設等整備事業(直轄国道)の重点配分等により国交省が支援

<ソフト的な支援>

- 自治体・関係機関による協議会を設け、複数の関係機関の制度の活用等について、ワンストップで相談できる体制を構築。

選定にあたり優先的に評価する事項

- 重点「道の駅」候補からの企画提案
- 以下に関する企画提案
 - ・次世代観光拠点の形成(DMOとの連携、インバウンド観光)
 - ・風景街道・道守との連携
 - ・高速道路との連携
 - ・子育て応援
- 完成年が古い駅のリニューアル

その他

- 計画的な企画検討を促進する観点から、今後も毎年、公募を実施することを予定